

好決算銘柄が相場を主導し、年初来高値更新

2009年7月30日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

中国株急落がリスク資産への投資意欲を後退させる

中国の2大商業銀行が新規貸出を大幅に削減するとの観測により中国株が急落したのを受けて、世界的にリスク回避の動きが広がりました。ロシア、ブラジルなどの新興国株や原油などの商品価格が下落しました。

米国株式市場は、中国株や原油価格の大幅安を受けてエネルギーなどの景気敏感株中心に下落しましたが、ディフェンシブ関連株が下支えして小幅安となりました。原油価格は中国株下落に加えて在庫が市場予想を上回る増加だったことから大幅に下落しました。また、5年債入札(390億ドル)が不調だったことから、米国金利が上昇したことも株式相場の重しでした。最高落札利回りは2.69%と事前予想2.64%を上回りました。2年債に続く不調に、今後も続く大規模入札への懸念が一段と高まっています。

6月の米耐久財受注は輸送用機器や航空機の需要落ち込みを受けて前月比▲2.5%と、市場予想(▲0.6%)を大幅に下回りました。しかし輸送機器を除くベースでは+1.1%と前月(+0.8%)より増加し、市場予想(±0.0%)も上回っており、製造業受注の安定化を示唆する内容として受け止められ、市場での反応は限定的でした。また、米地区連銀経済報告(ベージュブック)では、全12地区連銀の大半が6-7月の景気減速ペースの鈍化を報告し、米景気が最悪期を脱しつつあることが示唆されました。しかし、多くの地区で小売販売が停滞しており、銀行融資も7地区が融資基準を引き上げるなど、プラス成長を示す内容はほとんどありませんでした。

好決算の自動車株が相場を牽引

寄り前に発表された6月の鉱工業生産指数は、前年同期比は▲23.4%と低水準ながら、前月比+2.4%(市場予想は+2.5%)と4ヶ月連続で上昇しました。四半期ベースで見ると、4-6月期は前期比+8.3%と大幅な上昇で、08年10-12月期▲11.3%、09年1-3月期▲22.1%の大幅な落ち込みから急速に回復しています。出荷も4-6月期は前期比+6.4%と4ヶ月連続で増加する一方、在庫は同▲4.4%と6ヶ月連続で減少しており、生産や出荷の伸びによって在庫調整が進んでいることが窺えます。また先行き生産予測についても、7月+1.6%、8月+3.3%と増産見込みとなっており、7-9月期も大幅な増産が続く期待が高まりました。

国内株式市場は上昇して始まったものの、寄って1時間も経たないうちにマイナス圏へ突入しました。好決算を発表した輸送用機器などの主力株が堅調でしたが、資源関連株が軒並み下落となりました。中国株の動向に注目が集まる中、小幅反発して始まった中国株がマイナスに転じたことから、為替相場では円高に振れるなどリスク回避的な動きとなりました。しかし中国銀行の貸出総量規制はないとの観測が流れ、中国株が再びプラス圏に上昇すると、国内株式相場も持ち直し、大引けにかけて上げ幅を広げました。その結果、日経平均株価の終値は10165.21円と、6月12日に付けた年初来高値を更新しました。好決算銘柄に対する買い意欲が旺盛で、業種別では、輸送用機器、電気機器、精密の3セクターがそろって年初来高値を更新しています。決算については強弱が入り混じっているものの、予想を上回る好決算には素直に反応する地合いとなっており、悲観的なムードは後退しつつあるように思います。

以上